

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	単位型投信／海外／債券	
信 託 期 間	約 5 年間（2014年 3 月31日～2019年 3 月22日）	
運 用 方 針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主 要 投 資 対 象	ベビ ー フ ァ ン ド	ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドの受益証券
	ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
マザーファンドの運用方法	①主として、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ②運用にあたっては、以下の点に留意します。 イ. 投資対象は、主として海外企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ロ. 流動性を確保するため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての国債、州債およびコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。 ハ. 債券の格付けは、取得時において B B B 格相当以上（ムーディーズで B a a 3 以上または S & P で B B B - 以上もしくはフィッチで B B B - 以上）とします。 ニ. 金利リスク対応のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての債券先物取引を利用することがあります。 ③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。 ※ベビ ー フ ァ ン ド「為替ヘッジあり」においては、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	
組 入 制 限	ベビ ー フ ァ ン ドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の 10%以下
分 配 方 針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれが多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビ ー フ ァ ン ド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド
2014－03
(為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

運用報告書(全体版)
第 4 期
(決算日 2016年 3 月22日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ外貨建て海外社債ファンド 2014－03（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし）」は、このたび、第 4 期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目 9 番 1 号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0 1 2 0－1 0 6 2 1 2
（営業日の 9：00～17：00）
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<2680>
<2681>

★為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				受 益 者 利 回 り	公 社 債 組入比率	債券先物 比 率	元 本 残 存 率
	(分 配 落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 額	期 騰 落 中 率				
	円	円	円	%	%	%	%	%
設 定 (2014年 3月31日)	10,000	—	—	—	—	—	—	100.0
1 期 末 (2014年 9月22日)	10,140	110	250	2.5	5.2	101.8	—	98.5
2 期 末 (2015年 3月23日)	10,237	160	257	2.5	5.2	98.0	—	72.0
3 期 末 (2015年 9月24日)	9,950	100	△ 187	△ 1.8	2.2	96.4	—	66.2
4 期 末 (2016年 3月22日)	9,908	100	58	0.6	1.9	94.8	—	57.8

(注 1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。
(注 2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。
(注 4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。
(注 5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■基準価額・騰落率

期首：9,950円

期末：9,908円（分配金100円）

騰落率：0.6%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

投資適格社債の金利低下（債券価格は上昇）や利息収入がプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014－03（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期 首) 2015年 9 月24日	9,950	—	96.4	—
9 月末	9,892	△ 0.6	96.2	—
10月末	9,929	△ 0.2	96.4	—
11月末	9,919	△ 0.3	97.2	—
12月末	9,856	△ 0.9	94.6	—
2016年 1 月末	9,919	△ 0.3	95.6	—
2 月末	9,939	△ 0.1	95.3	—
(期 末) 2016年 3 月22日	10,008	0.6	94.8	—

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

○海外債券市況

海外債券市況は、期を通しておおむね金利は低下しました。期首より、米国では利上げ観測が徐々に強まるに連れて金利が上昇した一方、欧州では追加金融緩和への期待から金利は低下しました。2015年12月には米国で利上げが実施され、欧州では追加金融緩和の内容が市場に失望されたことから、年末にかけて金利は上昇しました。しかし2016年の年明け以降は、原油価格の下落や中国・人民元の下落を背景に株式市場の調整が強まり、また1月に日銀が予想外のマイナス金利を導入した影響もあって、金利は大きく低下しました。2月中旬からは原油価格が底打ちの様相となり、オーストラリアやカナダなどの資源国では利下げ観測が後退したほか、米国でも景気への過度な悲観論が後退したことから金利は反発に転じて、年初からの低下幅を縮小しました。

投資適格社債市場について、米ドル建て社債のスプレッド（国債に対する上乗せ金利）は、期首からドイツ自動車メーカーの不正問題の発覚などで株価が下落し、市場のリスク回避姿勢が強まったことから一時的に拡大しました。しかし、中国の追加金融緩和の決定等から市場のリスク回避姿勢が弱まり、スプレッドは縮小傾向に転じました。2016年1月以降、株価や原油価格などリスク資産価格全般が下落する中、投資適格社債市場からの資金流出傾向も強まりスプレッドは大幅に拡大しましたが、その後の原油価格の反発等を背景にリスク回避姿勢が和らいだことを受け、長期年限中心にスプレッドは縮小傾向に転じました。

前期における「今後の運用方針」

○当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れます。また、外貨建て資産の為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

○ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてBBB格相当以上とします。債券については長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れました。また、外貨建て資産の為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

○ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないました。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上としました。業種別構成については、金融、資本財および生活必需品セクターを中心とした構成を維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は100円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益24,395,538円が、純資産額の元本超過額1,108,877円を超過しているため、経費控除後の配当等収益24,395,538円（1万口当り165.41円）を分配対象額として、うち14,747,879円（1万口当り100円）を分配金額としております。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れます。また、外貨建て資産の為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

○ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上とします。債券については長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 9. 25～2016. 3. 22)		
	金 額	比 率	
信託報酬	67円	0. 677%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9, 917円です。
(投信会社)	(26)	(0. 266)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(40)	(0. 398)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0. 012	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0. 008)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	68	0. 689	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年9月25日から2016年3月22日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	54,952	61,000	191,812	219,000

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	1,435,030	1,298,171	1,443,566

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年3月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	1,443,566	95.9
コール・ローン等、その他	61,411	4.1
投資信託財産総額	1,504,978	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=111.93円、1オーストラリア・ドル=84.78円です。

(注3) ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(1,674,591千円)の投資信託財産総額(1,680,899千円)に対する比率は、99.6%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年3月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	2,912,484,315円
コール・ローン等	59,309,626
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド(評価額)	1,443,566,816
未収入金	1,409,607,873
(B) 負債	1,451,335,416
未払金	1,426,606,400
未払収益分配金	14,747,879
未払信託報酬	9,917,603
その他未払費用	63,534
(C) 純資産総額(A-B)	1,461,148,899
元本	1,474,787,901
次期繰越損益金	△ 13,639,002
(D) 受益権総口数	1,474,787,901口
1万口当り基準価額(C/D)	9,908円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,908円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は13,639,002円です。

■損益の状況

当期 自2015年9月25日 至2016年3月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	937,336円
受取利息	1,912
その他収益金	935,424
(B) 有価証券売買損益	91,536,997
売買益	186,179,661
売買損	△ 94,642,664
(C) 有価証券評価差損益	△ 73,774,381
(D) 信託報酬等	△ 10,878,867
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	7,821,085
(F) 前期繰越損益金	△ 8,431,600
(G) 解約差損益金	1,719,392
(H) 合計(E+F+G)	1,108,877
(I) 収益分配金	△ 14,747,879
次期繰越損益金(H+I)	△ 13,639,002

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示してあります。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 （ 税 込 み ）	100円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

★為替ヘッジなし

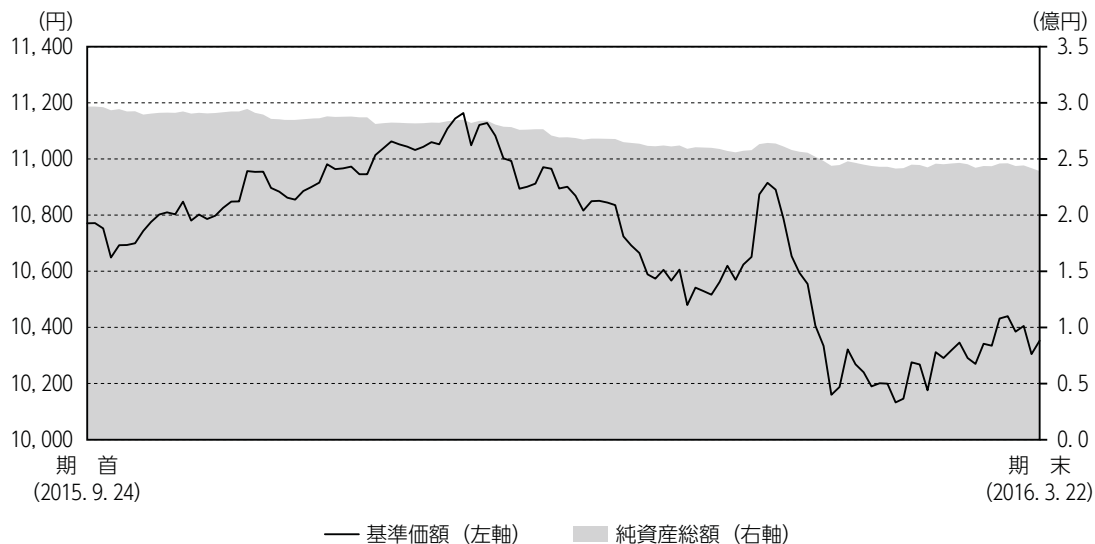
設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				受 益 者 利 回 り	公 社 債 組入比率	債券先物 比 率	元 本 残 存 率
	(分 配 落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 額	期 騰 落 中 率				
設 定 (2014年 3月31日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1 期末 (2014年 9月22日)	10,587	135	722	7.2	15.0	97.3	—	99.1
2 期末 (2015年 3月23日)	11,325	165	903	8.5	16.6	96.5	—	88.4
3 期末 (2015年 9月24日)	10,771	175	△ 379	△ 3.3	8.4	98.0	—	27.0
4 期末 (2016年 3月22日)	10,193	160	△ 418	△ 3.9	4.2	95.2	—	23.0

(注 1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。
(注 2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。
(注 4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。
(注 5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■基準価額・騰落率

期首：10,771円

期末：10,193円（分配金160円）

騰落率：△3.9%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

投資適格社債の金利低下（債券価格は上昇）や利息収入はプラス要因となりましたが、米ドルと豪ドルの対円為替レート下落がマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03（為替ヘッジなし）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
		騰 落 率		
	円	%	%	%
（期 首）2015年 9 月24日	10,771	—	98.0	—
9 月末	10,693	△ 0.7	97.9	—
10月末	10,862	0.8	97.2	—
11月末	11,052	2.6	97.2	—
12月末	10,845	0.7	95.5	—
2016年 1 月末	10,874	1.0	95.5	—
2 月末	10,268	△ 4.7	96.1	—
（期 末）2016年 3 月22日	10,353	△ 3.9	95.2	—

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

○海外債券市況

海外債券市況は、期を通しておおむね金利は低下しました。期首より、米国では利上げ観測が徐々に強まるに連れて金利が上昇した一方、欧州では追加金融緩和への期待から金利は低下しました。2015年12月には米国で利上げが実施され、欧州では追加金融緩和の内容が市場に失望されたことから、年末にかけて金利は上昇しました。しかし2016年の年明け以降は、原油価格の下落や中国・人民元の下落を背景に株式市場の調整が強まり、また1月に日銀が予想外のマイナス金利を導入した影響もあって、金利は大きく低下しました。2月中旬からは原油価格が底打ちの様相となり、オーストラリアやカナダなどの資源国では利下げ観測が後退したほか、米国でも景気への過度な悲観論が後退したことから金利は反発に転じて、年初からの低下幅を縮小しました。

投資適格社債市場について、米ドル建て社債のスプレッド（国債に対する上乗せ金利）は、期首からドイツ自動車メーカーの不正問題の発覚などで株価が下落し、市場のリスク回避姿勢が強まったことから一時的に拡大しました。しかし、中国の追加金融緩和の決定等から市場のリスク回避姿勢が弱まり、スプレッドは縮小傾向に転じました。2016年1月以降、株価や原油価格などリスク資産価格全般が下落する中、投資適格社債市場からの資金流出傾向も強まりスプレッドは大幅に拡大しましたが、その後の原油価格の反発等を背景にリスク回避姿勢が和らいだことを受け、長期年限中心にスプレッドは縮小傾向に転じました。

○為替相場

為替相場は、期を通しておおむね下落（円高）しました。期首より、米国の利上げ観測が徐々に強まる中で米ドルが対円で上昇した一方で、E C B（欧州中央銀行）が追加金融緩和の実施に至ったユーロは対円で弱含みました。2016年の年明け以降は、原油価格の下落や人民元の下落を背景に株式市場が調整し、リスク回避の動きから円高となりました。また、1月末に日銀が予想外のマイナス金利を導入すると、当初は円安になりましたが一時的な動きにとどまり、米国の景気鈍化や欧州の一部の金融機関に対する懸念から株式市場が調整するなどリスク回避傾向が強まって、円高が進行しました。2月中旬からは原油価格が底打ちの様相となり、オーストラリアやカナダなどの資源国通貨は買い戻されて上昇しましたが、E C Bの追加金融緩和などを背景に、ユーロや米ドルは横ばいから小幅な上昇にとどまりました。

前期における「今後の運用方針」

○当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れます。

○ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上とします。債券については長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れました。

○ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないました。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上としました。業種別構成については、金融、資本財および生活必需品セクターを中心とした構成を維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は160円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における純資産額の元本超過額8,289,158円が、経費控除後の配当等収益4,064,102円を超過しているため、純資産額の元本超過額8,289,158円（1万口当り353.10円）を分配対象額として、うち3,756,029円（1万口当り160円）を分配金額としております。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れます。

○ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてBBB格相当以上とします。債券については長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 9. 25～2016. 3. 22)		
	金 額	比 率	
信託報酬	72円	0. 677%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10, 705円です。
(投信会社)	(28)	(0. 265)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(43)	(0. 398)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0. 012	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0. 008)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	74	0. 689	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

（注3）比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014－03（為替ヘッジなし）

■売買および取引の状況
 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年9月25日から2016年3月22日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	—	—	43,931	50,300

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	257,345	213,413	237,316

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年3月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	237,316	97.0
コール・ローン等、その他	7,440	3.0
投資信託財産総額	244,756	100.0

- (注1) 評価額の単位未満は切捨て。
- (注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝111.93円、1オーストラリア・ドル＝84.78円です。
- (注3) ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(1,674,591千円)の投資信託財産総額(1,680,899千円)に対する比率は、99.6%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年3月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	244,756,446円
コール・ローン等	7,440,171
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド(評価額)	237,316,275
(B) 負債	5,471,468
未払収益分配金	3,756,029
未払信託報酬	1,704,769
その他未払費用	10,670
(C) 純資産総額(A－B)	239,284,978
元本	234,751,849
次期繰越損益金	4,533,129
(D) 受益権総口数	234,751,849口
1万口当り基準価額(C／D)	10,193円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,193円です。

■損益の状況

当期 自2015年9月25日 至2016年3月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	74円
受取利息	74
(B) 有価証券売買損益	6,368,042
売買益	6,368,042
(C) 有価証券評価差損益	△ 14,390,708
(D) 信託報酬等	△ 1,839,492
(E) 当期損益金(A＋B＋C＋D)	△ 9,862,084
(F) 前期繰越損益金	21,236,787
(G) 解約差損益金	△ 3,085,545
(H) 合計(E＋F＋G)	8,289,158
(I) 収益分配金	△ 3,756,029
次期繰越損益金(H＋I)	4,533,129

- (注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。
- (注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
- (注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
- (注4) 収益分配金の計算過程は15ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 （ 税 込 み ）	160円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

運用報告書 第4期 (決算日 2016年3月22日)

(計算期間 2015年9月25日～2016年3月22日)

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドの第4期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運 用 方 法	①主として、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ②運用にあたっては、以下の点に留意します。 イ. 投資対象は、主として海外企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ロ. 流動性を確保するため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての国債、州債およびコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。 ハ. 債券の格付けは、取得時においてBBB格相当以上（ムーディーズでBaa3以上またはS&PでBBB-以上もしくはフィッチでBBB-以上）とします。 ニ. 金利リスク対応のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての債券先物取引を利用することがあります。 ③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

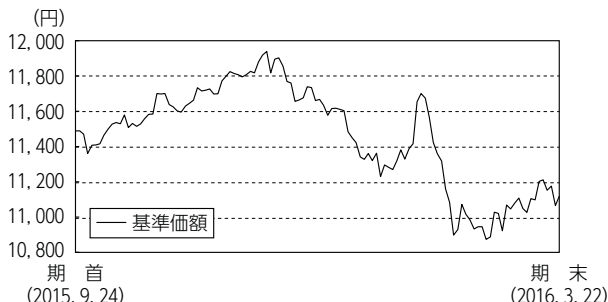
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
		騰 落 率		
(期 首) 2015年 9月24日	円	%	%	%
9 月 末	11,488	△ 0.7	98.3	—
10 月 末	11,407	△ 0.7	98.2	—
11 月 末	11,602	1.0	97.2	—
12 月 末	11,818	2.9	97.2	—
2016年 1 月 末	11,611	1.1	95.4	—
2 月 末	11,654	1.4	95.2	—
3 月 末	11,020	△ 4.1	96.1	—
(期 末) 2016年 3月22日	11,120	△ 3.2	96.0	—

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：11,488円 期末：11,120円 騰落率：△3.2%

【基準価額の主な変動要因】

投資適格社債の金利低下(債券価格は上昇)や利息収入はプラス要因となりましたが、米ドルと豪ドルの対円為替レート下落がマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆投資環境について

○海外債券市場

海外債券市場は、期を通しておおむね金利は低下しました。期首より、米国では利上げ観測が徐々に強まるに連れて金利が上昇した一方、欧州では追加金融緩和への期待から金利は低下しました。2015年12月には米国で利上げが実施され、欧州では追加金融緩和の内容が市場に失望されたことから、年末にかけて金利は上昇しました。しかし2016年の年明け以降は、原油価格の下落や中国・人民元の下落を背景に株式市場の調整が強まり、また1月に日銀が予想外のマイナス金利を導入した影響もあって、金利は大きく低下しました。2月中旬からは原油価格が底打ちの様相となり、オーストラリアやカナダなどの資源国では利下げ観測が後退したほか、米国でも

景気への過度な悲観論が後退したことから金利は反発に転じて、年初からの低下幅を縮小しました。

投資適格社債市場について、米ドル建て社債のスプレッド(国債に対する上乗せ金利)は、期首からドイツ自動車メーカーの不正問題の発覚などで株価が下落し、市場のリスク回避姿勢が強まったことから一時的に拡大しました。しかし、中国の追加金融緩和の決定等から市場のリスク回避姿勢が弱まり、スプレッドは縮小傾向に転じました。2016年1月以降、株価や原油価格などリスク資産価格全般が下落する中、投資適格社債市場からの資金流出傾向も強まりスプレッドは大幅に拡大しましたが、その後の原油価格の反発等を背景にリスク回避姿勢が和らいだことを受け、長期年限中心にスプレッドは縮小傾向に転じました。

○為替相場

為替相場は、期を通しておおむね下落(円高)しました。期首より、米国の利上げ観測が徐々に強まる中で米ドルが対円で上昇した一方で、ECB(欧州中央銀行)が追加金融緩和の実施に至ったユーロは対円で弱含みました。2016年の年明け以降は、原油価格の下落や人民元の下落を背景に株式市場が調整し、リスク回避の動きから円高となりました。また、1月末に日銀が予想外のマイナス金利を導入すると、当初は円安になりましたが一時的な動きにとどまり、米国の景気鈍化や欧州の一部の金融機関に対する懸念から株式市場が調整するなどリスク回避傾向が強まって、円高が進行しました。2月中旬からは原油価格が底打ちの様相となり、オーストラリアやカナダなどの資源国通貨は買い戻されて上昇しましたが、ECBの追加金融緩和などを背景に、ユーロや米ドルは横ばいから小幅な上昇にとどまりました。

◆前期における「今後の運用方針」

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B格相当以上とします。債券については長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

◆ポートフォリオについて

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないました。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B格相当以上としました。業種別構成については、金融、資本財および生活必需品セクターを中心とした構成を維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。

投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B格相当以上とします。債券については長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	1 (1)
合 計	1

(注 1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって
受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項
目および算出法については前掲の「1 万口当りの費用の明細」の項目の概
要をご参照ください。
(注 2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況

公 社 債				(2015年 9 月25日から2016年 3 月22日まで)
		買 付 額		売 付 額
外 国	アメリカ	社債券	千アメリカ・ドル 829	千アメリカ・ドル 2,590 (—)

(注 1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。
(注 2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
(注 3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。
(注 4) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

公 社 債				(2015年 9 月25日から2016年 3 月22日まで)
買 付		当 期 売 付		
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額	
	千円		千円	
Pepsico Inc/NC (アメリカ) 3. 1% 2022/7/17	47,865	Merck & Co Inc (アメリカ) 2. 8% 2023/5/18	60,214	
McDonald's Corp (アメリカ) 3. 625% 2021/5/20	25,652	BNP Paribas SA (フランス) 3. 25% 2023/3/3	56,664	
McDonald's Corp (アメリカ) 2. 2% 2020/5/26	24,097	Xstrata Finance Canada Ltd (カナダ) 4. 95% 2021/11/15	51,382	
		Pepsico Inc/NC (アメリカ) 3. 1% 2022/7/17	46,822	
		PROCTER & GAMBLE CO. (アメリカ) 3. 1% 2023/8/15	37,884	
		Societe Generale SA (フランス) 5. 2% 2021/4/15	27,156	
		Verizon Communications Inc (アメリカ) 4. 15% 2024/3/15	25,578	

(注 1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。
(注 2) 単位未満は切捨て。

■ 組入資産明細表

(1) 外国(外貨建て) 公社債(通貨別)

作 成 期	当 期				末			
区 分	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	うち B B 格 以下組入 率	残存期間別組入比率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
			千円	%	%	%	%	%
アメリカ	千アメリカ・ドル 9,900	千アメリカ・ドル 10,588	1,185,140	70.5	—	61.3	9.2	—
オーストラリア	千オーストラリア・ドル 4,900	千オーストラリア・ドル 5,045	427,752	25.4	—	5.1	20.3	—
合 計	—	—	1,612,893	96.0	—	66.4	29.5	—

(注 1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注 2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注 3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2) 外国（外貨建）公社債（銘柄別）

区 分		当 期		末		評 価 額		償還年月日
		銘 柄	種 類	年利率	額 面 金 額	外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
アメリカ				%	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	
		MetLife Inc	社債券	3.0000	200	195	21,892	2025/03/01
		BlackRock Inc	社債券	3.5000	200	210	23,586	2024/03/18
		FedEx Corp	社債券	4.9000	300	317	35,514	2034/01/15
		Starbucks Corp	社債券	3.8500	300	325	36,387	2023/10/01
		Hewlett-Packard Co	社債券	4.6500	500	519	58,098	2021/12/09
		FORD MOTOR CR. CO.	社債券	4.2500	500	526	58,938	2022/09/20
		Anheuser-Busch InBev Finance Inc	社債券	2.6250	300	299	33,522	2023/01/17
		UNITED TECH CORP	社債券	3.1000	200	209	23,440	2022/06/01
		McDonald's Corp	社債券	2.2000	200	202	22,702	2020/05/26
		McDonald's Corp	社債券	3.6250	200	213	23,843	2021/05/20
		Time Warner Cable Inc	社債券	5.0000	300	324	36,292	2020/02/01
		Wal-Mart Stores Inc	社債券	5.8750	300	381	42,650	2027/04/05
		Verizon Communications Inc	社債券	4.1500	300	326	36,595	2024/03/15
		KROGER CO	社債券	3.3000	500	524	58,651	2021/01/15
		HOME DEPOT INC.	社債券	3.7500	200	219	24,564	2024/02/15
		CITIGROUP INC.	社債券	5.5000	500	539	60,344	2025/09/13
		Wells Fargo & Co	社債券	4.1250	500	528	59,130	2023/08/15
		Bank One Corp	社債券	7.7500	500	631	70,703	2025/07/15
		GOLDMAN SACHS GROUP INC.	社債券	4.0000	500	517	57,910	2024/03/03
		Caterpillar Financial Services Corp	社債券	2.8500	300	305	34,239	2022/06/01
		BPCE SA	社債券	5.1500	500	517	57,942	2024/07/21
		Societe Generale SA	社債券	5.2000	300	335	37,578	2021/04/15
		Enel Finance International NV	社債券	5.1250	300	327	36,602	2019/10/07
		RABOBANK NEDERLAND	社債券	4.6250	500	524	58,720	2023/12/01
		GlaxoSmithKline Capital PLC	社債券	2.8500	500	519	58,131	2022/05/08
		Santander UK PLC	社債券	5.0000	500	510	57,100	2023/11/07
		Telefonica Emisiones SAU	社債券	4.5700	500	536	60,054	2023/04/27
通貨小計	銘柄数 金 額	27銘柄			9,900	10,588	1,185,140	
オーストラリア					千オーストラリア・ドル	千オーストラリア・ドル		
		Brisbane Airport Corp Pty Ltd	社債券	6.0000	500	542	46,002	2020/10/21
		Incitec Pivot Ltd	社債券	5.7500	500	517	43,882	2019/02/21
		Aurizon Network Pty Ltd	社債券	5.7500	1,000	1,015	86,078	2020/10/28
		Mirvac Group Finance Ltd	社債券	5.7500	400	428	36,300	2020/09/18
		National Australia Bank Ltd	社債券	3.1600	1,000	1,001	84,880	2018/11/08
		AUST & NZ BANK	社債券	4.8750	500	527	44,708	2021/03/19
		Westpac Banking Corp	社債券	5.0300	1,000	1,013	85,899	2022/08/23
通貨小計	銘柄数 金 額	7銘柄			4,900	5,045	427,752	
合 計	銘柄数 金 額	34銘柄					1,612,893	

(注 1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注 2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

■投資信託財産の構成

2016年 3 月22日現在		
項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	1, 612, 893	96. 0
コール・ローン等、その他	68, 005	4. 0
投資信託財産総額	1, 680, 899	100. 0

(注 1) 評価額の単位未満は切捨て。
 (注 2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月22日における邦貨換算レートは、1 アメリカ・ドル＝111. 93円、1 オーストラリア・ドル＝84. 78円です。
 (注 3) 当期末における外貨建純資産 (1, 674, 591千円) の投資信託財産総額 (1, 680, 899千円) に対する比率は、99. 6% です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年 3 月22日現在	
項 目	当 期 末
(A)資産	1, 680, 899, 005円
コール・ローン等	53, 001, 891
公社債（評価額）	1, 612, 893, 384
未取利息	14, 992, 460
前払費用	11, 270
(B)負債	—
(C)純資産総額（A－B）	1, 680, 899, 005
元本	1, 511, 585, 515
次期繰越損益金	169, 313, 490
(D)受益権総口数	1, 511, 585, 515口
1万口当り基準価額（C／D）	11, 120円

- *期首における元本額は1, 692, 376, 774円、当期中における追加設定元本額は54, 952, 962円、同解約元本額は235, 744, 221円です。
- *当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03（為替ヘッジあり）1, 298, 171, 598円、ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03（為替ヘッジなし）213, 413, 917円です。
- *当期末の計算口数当りの純資産額は11, 120円です。

■損益の状況

当期 自2015年 9 月25日 至2016年 3 月22日		
項 目	当 期	
(A)配当等収益		35, 935, 356円
受取利息		35, 935, 356
(B)有価証券売買損益	△	90, 762, 829
売買益		22, 555, 499
売買損	△	113, 318, 328
(C)その他費用	△	155, 148
(D)当期損益金（A＋B＋C）	△	54, 982, 621
(E)前期繰越損益金		251, 804, 852
(F)解約差損益金	△	33, 555, 779
(G)追加信託差損益金		6, 047, 038
(H)合計（D＋E＋F＋G）		169, 313, 490
次期繰越損益金（H）		169, 313, 490

(注 1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
 (注 2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。